

平成 28 年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価（3月30日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	生徒の実情に合わせた教育内容・環境の充実を図り、教育課程の弾力化をさらに推進する。 授業の工夫・改善を進めるとともに、学習意欲を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒へのきめ細かな指導を組織的に行う 学習環境の整備を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に対する指導方法を工夫し充実させる。 生徒の自発的な学習の場を充実させるとともに生徒の視点に立った新校舎の設計に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする生徒への対応状況は改善しているか。 生徒の意欲を向上させるための教材研究の状況および自学自習への対応状況。 新校舎の設計内容。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に対応できるよう、生徒指導と一体化した教科指導のあり方を追求し、教務内規の大幅な見直しを図った。 校内授業研究を充実させ、生徒主体の授業の進め方について共通理解を図った。 HR教室及び選択教室を確保することにより、定時制専用の校舎設計を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語支援の学校設定科目など、新たに導入したものが、実効性を発揮するよう支援していく。 授業研究に対する職員意識を高め、実地に活用できる内容を探って、よりいっそうの充実を図りたい。 新校の教育課程を早急に作成し、スムーズな移行ができるよう共通理解を図りながら進めていく。 	(評議員)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に対応できるよう、単位制総合学科の利点をいかした科目編成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語支援の学校設定科目など新たに導入した科目の効果の検証を行うとともに、実効性を発揮する体制を整えていく。 生徒による授業評価の分析結果を職員全体で共有し、引き続き「組織的」な授業改善に取り組む。 教育課程のスリム化も含め、バランスの良い教育課程を早急に作成し、スムーズな移行ができるよう共通理解を図りながら進めていく。
2	生徒指導・支援	支援を必要とする生徒への対応を充実し、安心して学習に取り組める学校環境を整え、基本的な生活習慣の確立を図る。また、生活指導と交通安全教育の充実及び「心の教育」を推進する。部活動や特別活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境を整備し、規範意識及び公共心を養う 問題行動やいじめ、不登校等、生徒が抱える問題の未然防止に努める 学校行事や部活動への積極的参加を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行など日常のマナーアップの指導を継続して行い、コミュニケーション能力の向上に努める。 カウンセラー、ソーシャルワーカーと協力し、教育相談体制を充実させるとともに職員間の情報交換を徹底し効果的な指導を行う。 生徒が参加しやすい学校行事を企画し、生徒の自治に対する意識を高揚させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導の実施状況と地域の方や来校者からの意見聴取。 カウンセラー、ソーシャルワーカーとの相談内容と職員との連携状況が前年度より活発になっているか。 前年に比べ生徒の参加状況はどうか。また、充実感、達成感は得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導は、ほぼ毎日実施。自ら挨拶してくる生徒が増えてきた。授業や全校集会に臨む姿勢・態度は落ち着いてきている。卒業生を送る会のマナーも良好であった。授業への遅刻は前年度より大幅に減った。ほとんどの生徒が外履きと上履きを区別するようになった。 前年度より継続のソーシャルワーカーとは以前にも増して活発に連携している。 生徒参加は、体育祭 148名中 111名 75.0%、文化祭 145名中 86名 59.3% 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との接し方等について、多くの生徒が挨拶や気遣いができるようになってきつつある。全体として、生徒の規範意識及び公共心は向上しつつある。今後、登校時の声かけ・授業中巡回・下校指導等を含めた生徒指導・支援を粘り強く継続し、日常のマナーアップ・コミュニケーション能力の向上を目指していきたい。 今後、声かけと動向観察、職員間の情報共有と迅速連携を大切にしながら、生徒を把握・理解・支援していきたい。 参加した生徒は、準備・実施・片付けにおいて意欲的に活動し、充実感・達成感は得られていたと考える。今後、生徒会役員とともに、機会を見つけて、行事の意義や楽しさ・おもしろさを伝え、行 	(評議員)	<ul style="list-style-type: none"> 行動的な生徒が少なくなったことで、学校全体は落ち着いて見えるが、精神的なダメージを受けている生徒は増加している。これらの生徒に対する丁寧な支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒達との信頼関係を築くためにも、今後も、登校時の声かけ・授業中巡回・下校指導等を含めた生徒指導・支援を粘り強く継続し、日常のマナーアップ・コミュニケーション能力の向上を目指す。 カウンセラー、ソーシャルワーカーに、必要に応じて、年次会や職員会議に参加してもらい、情報共有をしつつ行う。 生徒会役員とともに、機会を見つけて、行事の意義や楽しさ・おもしろさを伝え、行事への積極的参加を促していく。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	勤労観・職業観の育成を目指した進路指導の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育、シチズンシップ教育を推進し、勤労観・職業観を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の機関を活用した指導など、生徒の勤労感の啓発を充実させ進路に対する意欲を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会などの回数は前年度より増えたか。また内容は充実していたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業一般の授業が開講され、ハローワーク、県の労働局、サポートステーションとの連携が密になった。実務代替のための職場訪問により企業との連携も密になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤労観・職業観の育成は就職する学年ではなく1,2年次に充実させる必要がある。 高校生のアルバイトでも週20時間以上となると厚生年金に加入する生徒もいる。社会保険に関する教育を充実させる必要がある。 	(評議員) <ul style="list-style-type: none"> 仕事を終えてから学校で学ぶことは、生徒にとって大変なことであると思う。そのような生徒に対する、卒業に向けた支援ができています。 	<p><成果>「職業一般」の開講それに伴う実務代替により、外部機関や企業との連携が密になった。3・4年次生の勤労観・職業観が育ちつつある。</p> <p>[課題] 1・2年次生の勤労観・職業観の育成はどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の継続した学習内容、4年間を見通したキャリア教育・シチズンシップ教育の充実を図る。
4	地域等との協働	保護者や地域住民等と協働・連携した教育活動を展開するとともに、環境教育の推進(I S O)に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動を通じ、地域の一員である意識を育てる 校内美化に取り組み、I S Oへの意識づけと環境教育を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 行事など学校公開の機会を増やし、地域の方との交流を通しコミュニケーション能力を伸ばさせる。 清掃など奉仕的な活動の機会を増やす。あわせてごみのリサイクルなど、環境保護に対する意識を啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開した行事の内容は向上しているか。来校者は増加したか、またその評価はどうか。 清掃回数と参加者数は増えたか。校外のポイ捨てゴミは減少しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動は、ほとんど生徒のみの活動となっている。 地域連携における来校者は増えたとは言えない。 校内のごみ捨てのマナーは良くなったとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災活動などを通して地域との協働的な活動を推進したい。 おもしろ音楽講座では地域住民の参加者が多かった。イベントの工夫も重要だと思われる。 ごみ捨てのマナー教育を充実させる必要がある。 	(評議員) <ul style="list-style-type: none"> 停電を想定した訓練が行われているのは、良い取組みであると考えられる。夜間の災害時に帰宅できなくなった場合の対策を各々考えてもらいたい。 	<p><成果>地域貢献活動において、前年度と比較して、大きな変化はなかった。</p> <p>[課題] 今後、どのような工夫・取り組みが必要か。</p> <p><成果>校内美化活動において、1年次生の清掃活動が行われるようになったが、全体としては、大きな変化はなかった。</p> <p>[課題] 今後、どのような工夫・取り組みが必要か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の中で、I S Oに対する意識づけを行う。ごみ捨てのマナーやゴミの分別・清掃活動に対する生徒の意識改革に向けた工夫・取り組みを行う。
5	学校管理 学校運営	学校運営の改善に向けた取組を一層推進するとともに、安全対策を強化する。また、定時制の特色等に関する情報を発信し、地域から信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者への教育活動の公開や情報提供、校内評価の説明等を十分行い、学校関係者評価を充実させる 学校ホームページの充実を図り、情報発信に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 事故防止をはじめ、生徒・保護者・学校関係者からの信頼を得られる評価を目指す。 学校ホームページの更新回数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に比べ事故防止研修会の回数は増えたか。事故防止会議は有効に機能したか。不祥事の件数はゼロであったか。 ホームページの更新回数は増えたか。また、その内容は充実できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を利用して充実した事故防止研修が実施された。 ホームページを中心に安定的に情報発信が行われた。 部活動や学校行事がテレビ番組でも取り上げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も充実した事故防止研修を継続する。 積極的に学校情報の発信を継続する。 		<p><成果>職員会議の都度、事故防止研修を実施し、大きな事故はなかった。学校関係者評価は十分ではなかった。</p> <p>[課題] 事故防止に対する職員の意識をさらに高めるにはどうするか。</p> <p><成果>ホームページを中心に安定的に情報発信が行うことができた。</p> <p>[課題] 学校HPは充実してきているが、一部の職員に過度の負担がかかっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も充実した事故防止研修を継続するとともに、検証の機会を設ける。 学校関係者評価が充実するよう、これまで以上に、学校評議員・PTA役員に情報提供をしていく。 HPのさらなる充実に向け、「チームで」取り組めるよう工夫する。